

□ 平成29年度グリーンスクール表彰校の取組（11校）

（1）神戸市立妙法寺（みょうほうじ）小学校

「自然や命にふれ、その大切さを感じると同時に自分を振り返る」

学校に隣接した林を整備した「自然教育園」を活動のフィールドとし、各学年の生活科や理科、図工、総合的な学習の時間等の授業において、植物（ヒョウタン、アブラナ、アサガオ、ミニトマト等）を育てる活動や動物（アゲハチョウ、ヤゴ、マツモムシ等）の飼育活動を通じて、自然や命に対する畏敬の念を持つことや、自らもこの世界を形成する大切な存在であること、他者との関わりによって生きておりお互いを尊重する必要があること、そしてよりよく生きるために自然環境を守る必要があることを全学年通じて学んでいる。

また、保護者や地域、青少年協議会、まちづくり協議会と連携し、飯盒炊さん大会や定期的な清掃活動に取り組むとともに、「自教園ガイドブック」を作成し、入学から卒業までの環境学習のガイドとして活用している。



（2）三田市立武庫（むこ）小学校

「命がつながり、多種多様な生物が生息できる環境づくり」

池や廃材等の既存するものや、廃材等の利用価値が少なくなかったもの、衣装ケース等の身近な道具等を工夫して利用し、たくさんの生き物を学校に呼び込むためのビオトープ作り活動をしている。また、外来種の移入、病気の広がり等で本校のビオトープが存続できない場合を想定し、希少種の繁殖の確保につながるよう、他のビオトープやため池とのネットワークづくりをしている。

平成19年度から上級生のみで構成する「さかな委員会」を中心として、絶滅危惧種であるカワバタモロコやメダカの保護活動に取り組むとともに、下級生には身近な自然のおもしろさ・すばらしさを感じとることができるよう上級生がいきいきとして活動をしている姿にふれる環境づくりを行っている。



（3）明石市立高丘東（たかおかひがし）小学校

「『水』のつながり、『ひと』のつながり」

2年生と5・6年生の栽培委員は、栽培技術の指導を受けて菊の栽培を行い、秋に県立明石公園で開かれる菊花展へ出品する。3年生では、季節ごとに釜谷池群の生物の観察（昆虫や野鳥）や外来種侵入状況（ミシシippアカミミガメ）調査や、毎年10月には釜谷池群のひとつ「中笠池」のかいぼりを行っている。また、5年生では、実習田で田植えから米の収穫まで地域の農家の協力を得ながら稲作を行うとともに、自分たちが作ったお米と自然学校の食堂のお米と食べ比べする活動をしている。6年生では、道徳の時間などにおいてこれまでの活動を整理したり、考え直したりする活動や、理科において、生物が空気や水とのかかわりで生きていることや水の循環について学び、小学校における体験活動を締めくくりにしている。活動を通して、地域の自然とどう向き合うかについて考える視野を広げ、「ふるさと意識」を育んでいる。



(4) 朝来市立東河（とが）小学校

「光・命・愛・そして未来へ ～ヒメボタル等の生態学習を通して～」

平成22年度から3年生の環境学習に「ヒメボタル・ホタルミミズの学習」を位置づけ、地域の方をゲストティーチャーとして招き、生態についての学習や観察に取り組んでいる。

また、学習したことをまとめたリーフレットを作成し、地域の方や交流を続けている長崎県壱岐市立箱崎小学校の児童に紹介をしている。

地域の宝であり、財産であるヒメボタルやホタルミミズを題材にした学習を通し、地域と共に、環境について学び、考えることで「命を尊び、ふるさとを愛し、ふるさとを誇るこころ豊かなたくましい東河っ子」を育てている。



(5) 香美町立柴山（しばやま）小学校

「海は、ふるさと柴山の宝」

生活科、理科、社会科、家庭科、総合的な学習の時間等の授業において、地元の海を活動のフィールドとして港見学や浜辺の清掃活動、漂流物調査等の環境体験学習を展開し、命あるものに触れ、感動し、自然の恵みに感謝する心を育てている。

また、地域の協力によるカヌー体験や魚料理教室を実施したり、公民館事業「アドベンチャー柴山」等と連携した海の観察や保全活動を実施したりするなど、様々な角度から海を中心とした自然にどう向き合っていくかを考えさせるとともに、自然に向き合って生きている人の知恵・姿を学んでいる。そして、今の環境を引き継ぎ、将来に向けて人と環境の共存を考え、主体者として行動する態度を育てている。



(6) 淡路市立一宮（いちのみや）小学校

「4つの地域の良さを知る『4つ葉のクローバープロジェクト』」

学校全体で6年間の見通しをもって地域学習を行うことにより、ふるさと「一宮」を愛する児童を育てている。1・2年生では、町たんけんや海たんけんで地域について学び、3年生では、他の地域にも出かけ、それぞれの文化や産業、自然の特色を学んでいる。4年生の「香育（こういく）」では、ハーブの栽培を通して「香りの町 一宮」について理解を深め、郷土に愛着をもつ活動をしている。5年生では「海（淡路市）と山（宍粟市）の交歓会」においてそれぞれの



市の自然や産業に触れることを通して、その違いを知り、改めて良さに気付く活動をしている。また、4・5・6年生では、日本遺産の伊弉諾（いざなぎ）神宮へと続く郡家川周辺の緑化活動を行うことで「くにうみの町 一宮」としての伝統や文化に触れ、地域の方々と共に将来に渡って美しい町並みを守り続けようとする気持ちを育てている。

(7) 学校法人百合学院 百合学院（ゆりがくいん）小学校

「服を本当に必要としている人たちに“届けよう、服のチカラ”」

ユニクロが提供する教育プログラムである「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加し、古着の回収を通して、難民の現状について知り、戦争や貧困問題、人権問題についても考える活動を行っている。また、難民の方々に服を届ける活動を通して、他の国際問題や環境問題にも関心を持つ取組をしている。

さらに、活動を広めていくために地域社会や近隣の施設等に協力要請をすることにより、自分たちの考えを他人に分かりやすく伝え、活動の意義の理解を増していくことが不可欠であり、このプロジェクトを通して、総合的なコミュニケーション力を向上させている。



(8) 尼崎市立成良（せいりょう）中学校

「いのちのつながりを学び、豊かな心を育てる環境教育」

「命の循環」をテーマに尼崎の海の環境改善のために育てたワカメや、尼崎運河の水質浄化活動で回収した藻類や貝類から堆肥をつくり、屋上緑化に活用し、小中連携における「命の教育」の一環とし、作物栽培に取り組んでいる。このことを地域活動にも発展させ、「尼崎21世紀の森づくり」に取り組み、苗木の育成、植樹、下草刈り、間伐、生物観察を行いながら、自然の尊さや命のつながりについて学んでいる。

また、芦屋大学と連携し、ソーラーカー体験や太陽光発電で生ごみ処理機を稼働させ、生ごみを堆肥化する仕組みの学習を通して、環境にやさしいエネルギーの生産と活用について学んでいる。さらに、これらの学習活動に興味・関心を持つ生徒が、「成良ネイチャークラブ」を組織し、地域の環境改善に積極的に取り組んでいる。



(9) 南あわじ市立西淡（せいだん）中学校

「慶野松原 環境保全活動」

総合的な学習の時間において、慶野松原の自然について学習し、その素晴らしさを学ぶとともに、松林を守るため秋には地域の方とともに落ち葉を取り除く作業「すくずかき」を実施し、交流を深めている。

また、歴代の先輩たちの熱い思いを受け継ぎ、ふるさとの慶野松原を守る運動を継続して実施し、その中で、自分たちのライフスタイルを見直し、環境保全への気持ちを高め、自然を大切にすることを互いに育んでいる。さらに、地域を愛する心、奉仕の精神を松原清掃の活動を通して身につけている。



(10) 県立篠山東雲（ささやましののめ）高等学校

「地域資源を活用し、東雲から地域へ発信する」

篠山市内の竹林の増加に注目し、放置竹林の再生可能資源による循環型社会とすることを旨とし、放置竹林の整備を行うとともに、整備により出た竹を有効に活用するため①乾燥汚泥と竹チップ混和による堆肥化、②竹の家畜資料への利用、③バイオマスエネルギーとしての「竹ボイラー」の活用、④農業用ビニールハウス「バンブーハウス」の建築研究、⑤地理情報システムを活用した竹林マップの作成、の研究を行っている。



また、地域の特産品である山の芋を活用したグリーンカーテンを通じて、市内の小中学校で講習会を開催したり、東日本大震災の復興支援として宮城県の高校との交流活動を実施したりして、生徒の環境保全に対する意識を高め、ふるさと丹波を愛し、主体的に環境保全に取り組むことのできる生徒の育成をしている。

(11) 県立浜坂（はまさか）高等学校

「地域の自然を守る取組と伝統文化の保全、そして地域との共生」

ふるさと但馬の自然環境保全活動を通して、環境保全に対する意識を高めるとともに、将来にわたって主体的に環境保全活動に貢献していける生徒を育成している。

学校の東に位置する岸田川の生物について、グローバルキャリア類型の生徒を中心に、専門家や地域住民等と連携して生態調査を行うとともに、大学教授や豊岡土地改良センター等と連携し、アユ、サケ、マスの遡上を促すための新しい仕組みの魚道の整備に取り組んでいる。また、その魚道の効果を検証するため、これまで継続して調査してきた魚類の生息数の変化とアユ、サケ、マスの遡上状況の調査・研究をしている。さらに、岸田川の支流の田君川に生育する絶滅危惧種・バイカモの生育環境の改善や苗の植え付けを行い、バイカモの群落の再生を目指している。



□ 平成29年度グリーンスクール奨励賞表彰校の取組（4校）

(1) 姫路市立城北（じょうほく）小学校

「市蝶ジャコウアゲハの飛び交う街に！」

ジャコウアゲハの学習を3年生の総合的な学習の時間のカリキュラムに位置づけ、様々なチョウとジャコウアゲハとを比較しながら、個体の特徴について学習するなど、市蝶「ジャコウアゲハ」の保全・育成に取り組んでいる。

また、食餌であるウマノスズクサが枯れた際、幼虫の命を助けるための方法を考え、ジャコウアゲハのための花壇を作ったり、根伏という方法でウマノスズクサを校内で増やしたりする活動を通して、生物の多様性の観点も含め、自分たちのチョウと今後どのようにかわっていけばよいかを考えていく機会にしている。



(2) 洲本市立大野（おおの）小学校

「地域のエコプロジェクトに参加して、大野地区の環境を守ろう」

地域の菜の花畑で、種まき体験や、JAの方の協力による土壌調査、刈り取りの見学等の体験学習を通して、地域の自然を知り、身近なものからの気づきや発見をきっかけとして、環境問題に関心を持ち理解を深めている。

また、廃油の精製設備工場の見学や、バイオディーゼル燃料を使用して動いているバスの乗車体験を通して、エネルギー資源の特性、廃棄物やリサイクル等の環境の社会問題への関心を高める活動を行っている。



(3) 佐用町立上津（うわづ）中学校

「地域社会の再発見と未来への展望」

全校生徒を1年生から3年生まで縦割り編成し、3年生がリーダーとなって、全校生徒で約20aの農地に世界各地のひまわりを3種類ずつ（計27種類）植え、栽培している。また、平成25年度から小中連携の一環として、小学生のひまわり栽培体験の指導も行っている。

8月に開催する佐用町の「ひまわり祭り」では、来場者に自分たちが育てた「世界のひまわり」を紹介するとともに、自分たちが作った「ひまわり迷路」を案内する活動を行っている。

これらの活動を通して、自分が地域の一員であること自覚し、学習成果を自身の生活に活かそうとする態度を育てている。



(4) 豊岡市立出石（いずし）中学校

「絶滅危惧種「ミズアオイ」の保護活動」

総合的な学習の時間や理科の授業、夏季休業中のボランティア活動において、絶滅危惧種の「ミズアオイ」の生態や絶滅危惧種になった経緯、育て方、生育環境等の学習や種の採取や保管、生息する谷山川の清掃活動等の保護活動を行っている。

また、絶滅危惧の原因が、農薬の散布と外来生物の繁殖により、生態系が破壊されたことにあると考えられておりこの保護活動を通して、身近な生物どうしのつながりや自分たちの生活が自然環境に与える影響について知るとともに、人間も自然の中の一部として環境を保全しながら快適な生活を送るための具体的な方法を考察する機会としている。

